

# 「池袋学」は止まらない。

高萩 宏

二〇一七年二月、不動産・住宅情報サイトを運営する会社が「住みたい街ランキング」を発表した。住まいを探すユーザーの検索・問い合わせ数をベースに算出したものだそうだが、池袋が首都圏の「借りて住みたい街」の一位に選ばれている。

「JR線、西武池袋線、東武東上線、東京メトロなど合計8線が乗り入れる ビッグターミナルとしての交通便利性や、駅周辺での就業・就学、買物・飲食などの利便性と市街地としての事業集積性（業務性）が高く評価されたものと考えられます。「池袋」は東口側、西口側とも広大な事業集積地が展開されており、大型商業施設のほか飲食店街、大学、文教施設も数多くあつて駅勢圏が大きいことも1位になった要因と見ることができるでしょう。」

というのが調査した会社の解説だが、近年池袋は何かと取り上げられることが多い。二〇一四年に都内二十三区で唯一「消滅可能性都市」として話題になって以来、二〇一五年には豊島区役所と超高層マンションが同居する日本初のマンション一体型本庁舎「としまエコミューゼタウン」が完成した。そして、二〇一六年七月には池袋に事務所を置く小池百合子衆議院議員が都知事選挙に出て大勝利をおさめ、全国に池袋の名前が知れ渡った。

二〇一四年から東京芸術劇場と立教大学の連携講座として始まった「池袋学」だが、「渋谷学」や「新宿学」を参考に、これまで地域の成り立ちに焦点をあててきた。東京芸術劇場としては池袋のイメージを形作ってきた「池袋モンパルナス」、「トキワ荘」、「セゾン文化」の三点に関してさまざまな角度から検証してきた。二〇一四年からそれぞれ三人の方に登場していただいたが、検証しきった感じは未だないし、それぞれのレガシーが気になり始めている。「池袋モンパルナス」は二〇一七

年、十二回目を迎える「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」の事業の中で、新たな発展を遂げつつあり、「トキワ荘」は豊島区が数年後にはそのままの形で再建するそうで、漫画文化の聖地になろうとしている。「セゾン文化」はセゾン文化財団がその名を引き継いでいるが、東京の演劇・舞踊シーンに多大な影響を与え続けている。

二〇一六年度は「雑司が谷がやがプロジェクト」が日本ユネスコ協会連盟の「未来遺産」に登録された(二〇一四年)のを記念して、雑司が谷に関する特別レクチャーを立教大学と共同で行なった。そんな中、雑司が谷鬼子母神堂が国の有形重要文化財に正式に指定され、豊島区内の重要文化財は建造物としては「自由学園明日館」に次いで二件目となった。

三年間でひと区切りを付ける「池袋学」だが、歴史的な視点からは「明日館」以外にも雑司が谷関連でいえば、江戸時代の「鼠山感応寺」、「上がり屋敷」などへも興味が出てきている。豊島師範学校・成蹊大学・舞台芸術学院などの文教施設の歴史、東武デパート・西武デパート・ビックカメラ・丸井など商業施設のこれからも面白そうだ。再開発の準備組合が作られた池袋西口の未来も大いに気になる。そんな中、東京芸術劇場の前の池袋西口公園に大型の野外ステージを造りたい、という区長の発言が飛び込んできた。豊島区では二〇一九年に東アジア文化都市の開催地に立候補する準備も始まっている。

東京芸術劇場としては、二〇一七年度は公演事業として石田衣良さんの「池袋ウエストゲートパーク (IWGP)」を元にした音楽劇の創造を試みる。そして、三年を終えて振り返りの年としての二〇一七年度は「渋谷学」や「新宿学」が現在どうなっているか、「池袋学」と合わせて取り上げてみたいと思っている。

「池袋学」は止まらない、とタイトルに書いてしまったので、いつか再開できる日を楽しみにしていただください。

(たかはぎ・ひろし 東京芸術劇場副館長)

※鬼子母神の「鬼」の表記は本来「角」のない字を用いています。